日本に生きる道 80 年

金安 弘

来年 2025 年は、敗戦 80 年になる。45 年生まれは 80 歳、47 年生まれは 78 歳。肯定できる何かを思いつかないが、あると言えば、今のパートナーと 45 年間一緒にいることくらいか。毎日叱られっぱなしだけど反論しない自分に納得しているのかな。「パナシ君」と呼ばれている。

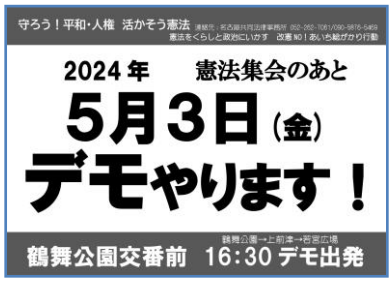
敗戦 50 年の年、戦争責任にケリをつけようと集まってできた「不戦へのネットワーク。」ケリをつける前にまた新たらしい戦争責任を生み出しかねない情勢の変化に対応することを第一義としてきた 30 年。毎年どこかで戦闘をしているアメリカが、さらに大きな戦争を決意すれば、日本はそれに対応できる戦争体制に移行できる国になりつつある。「なったと」と「なりつつある」は全然違う。体制移行に抵抗し、ストップさせる。課題領域を超えて、まずはこの一点の意志一致を確認しましょう。「憲法 9 条の制約。そんなのかんけいねえ」と言ってきた連中の法律違反の連続。「美しい日本を取り戻すための旧体制の打破を！」をスローガンにしてきた安倍派の解体。ここに至る 80 年間を要約してみよう。

戦後は、昭和天皇によるマッカーサー元帥への言葉で確定される。「どこでも好きなだけ占領軍の駐留を認めます。沖縄も好きなように。」アメリカ占領軍は、国連軍となり駐留米軍として自衛隊を育成して今に至る。戦争体験を兵士として体験した多くの国会議員は、国民的反戦意識に与野党を問わず対応せざるを得ず、その頂点が田中内閣の日中友好路線だった。この年既に沖縄返還により、東シナ海で中国と接する大きな海域を手にし、友好関係を確立する以外になかった。ここまで戦後 30 年。（朝鮮特需、ベトナム特需で、再度アジアの国々を犠牲にして経済成長を遂げた時代でもあった）

次の 20 年の最大の目標を保守勢力は、国鉄労働者の完全解体を追求した。国労を解体すれば、社会党の手足も解体され、社会党を弱体化できる。あとは、「信頼できる官僚・警察・自衛隊で秩序は守れる。」ベトナム戦争に敗北したアメリカは、この日本の秩序と憲法的制約を湾岸戦争に日本を参加させることで改変するも、戦後秩序によって十分改変できなかった。国会議員や大臣の中には、戦争体験者がまだ存命している時代だった。

2001 年 9.11 事件以降の現在

アフガニスタン、イラクと日本は参加したが英米同盟のように戦地で戦闘をするまでには至らなかった。この戦後的制約を「旧体制の打破」として登場したのが安倍であり、安部派であった。安倍は、旧保守派が信頼をおく「官僚・警察・自衛隊」の改変を強行し続けた。旧体制打破の絶対必要条件であったからだ。そして、2022 年 7 月 8 日、安倍の射殺によって安倍派の内実が白昼のもとに暴露されて今に至る。「美しい日本」ってなんだ「祖国のために戦えますか。」とは何だ。言ってやる！「日本のどこが美しいんだ！」「こんな祖国のために命をかけられますか？」と。岸田首相も繰り返す。「安全保障関係がますます厳しくなっている」と。冷戦時代の米ソの核戦争の危機の最前線にいた日本がどうだったか。岸田首相は受け継いだ言葉を捨て、東アジアで戦争ではなく生き延びる道を自分の言葉で発言せよ。官僚も警察も自衛隊も今迷っている。安倍暴走後を続けるか立ち止まるか。

明治・大正・昭和の 77 年、戦後 80 年。今のイスラエルに戦前の日本を見る。今のイスラエル政府は自滅する。天が許さない。では日本は。「良心的軍事拒否国家」になる以外生き残る道はない。

5.3 憲法集会 デモ企画